

原因不明不妊とは不妊のスクリーニング検査をしても原因を見つからない場合を呼びます。

不妊症全体の約2割程度を占めています。

不妊のスクリーニングとは以下の検査です。

- ①基礎体温測定
- ②超音波検査
- ③子宮卵管造影検査
- ④フーナー検査
- ⑤精液検査
- ⑥内分泌検査(ホルモン検査)

これに特殊検査として以下のものがあります。

- ①子宮鏡検査
- ②クラミジア検査
- ③抗精子抗体

原因不明不妊の治療の進め方ですが年齢を元に相談しながら治療方針を決めていきます。

以下の治療方法があります。

- ①このままタイミングを続ける

原因不明だとしてもタイミング療法を続けていると数カ月で妊娠してくるケースもたくさんあります。ゆっくり治療をしたい人にはすぐにステップアップしないで検査をしながらタイミングを正確に取ってもらうように勧めます。卵管造影後にも妊娠率が上がるためスクリーニングの間に妊娠するケースも見られます。

- ②排卵誘発を行いながら人工授精へステップアップする

妊娠への近道は「質の高い卵子を複数個確実に排卵させ、その周りに出来るだけ多くの精子を持っていくこと」です。そのために排卵誘発剤を使用して卵の数を2～3個作り、両方の卵巣から排卵させます。それにより例えば片方の卵巣周囲に癒着がある場合や、片方の排卵が失敗した場合でも反対側からのピックアップが期待できます。要は「数で勝負」という事になります。そして人工授精によりより濃縮された精子を子宮の奥深くに入れます。それにより受精の場である卵管膨大部に精子が多く集まりまる事ができます。その結果受精の確率が数倍上がります。

- ③腹腔鏡検査を受ける

あくまで自然妊娠を希望する場合は腹腔鏡検査を行います。腹腔鏡検査により卵管周囲癒着や初期の子宮内膜症が見つかる場合があります。これらの癒着が不妊症の原因になっている可能性があります。癒着剥離等の治療により妊娠してくるケースも非常に多く見られます。

#### ④体外受精へステップアップする

年齢が35歳以上の場合は④体外受精を選択するケースが多く見られます。

精液検査が正常でも体外受精をしてみると受精しないような「受精障害」という病気もあります。これは体外受精をしないと分かりません。また卵の質も採卵をしてみないと分かりません。また胚の発生が不良というケースもあります。

以上原因不明不妊の治療について説明しましたが、要はいたずらに同一の治療にこだわらず、可能な限り妊娠しやすい方法を個別に検討して、最適な治療で対応していく事が大切と言えます。